やっと、シーズン到来。
目の前は彼方まで青、
足もとはまぶしい白、
ふりかえれば、
山の木々がやさしくゆれる、ここ白浜。
広々としたビーチは、
一足先に真夏の熱気に包まれた。
カラフルなボールに独自のルールで、

ビーチフットボールin白浜第1回大会

ラグビーとはちょっとちがう楽しみを
満喫した一日。
第1回大会のフレッシュな顔ぶれは、
まだまだ入り込む余地ありですソ。
羽田からひとっ飛び、
ほんの1時間でつく楽園の王座に、
来年は、あなたがチャレンジ！

BEACH FOOTBALL '96 in SHIRAHAMA

○ただいるだけでも、自然の豊かさがうれしい和歌山白浜は、羽田から空路でわずか1時間。近場の楽園だ

○地元から県立田辺高校が参戦！　若さで相手をかき回し、決勝進出

しとしと。あじさい。カタツムリ。そんな季節のはずなのに、ここは真夏日、南紀白浜。中部、関東、関西、九州大会に先立って行われた白浜・第1回大会は、梅雨空をぬうような快晴に恵まれた。

全国大会にはつながらず、この一日で完結するトーナメントながら、6月23日の白良浜（しらはま）海水浴場には220人のフットボーラーたちが集合し、夏の気配のなかゲームを楽しんだ。サラサラの足元は、一面に広がる白いフィールド。風や潮で失われる砂を、なんとオーストラリアから輸入して補充しているという、絶品の浜だ。

○無砂のビーチの、涼しい風？　黄色い声はやっぱり欠かせません

○足をとられてうまくいかない場面も。でもそれがBFの味なのです

海あり山ありとリラックスタイムにはもってこいの、「楽園・南紀白浜」といえば、少し遠くに響くかもしれない。が、実は、羽田空港から飛び立てば小一時間で着く穴場。美しい浜がいろいろなスポーツのフィールドとして利用できることを考えれば、今後はスポーツ・リゾートとしても注目を集めそうだ。

さて、記念すべき初めてのチャンピオンに輝いたのは、その名も、チーム蟹江啓三。関西大会の常連は、鮮やかなユニフォームと熟練の技で4試合をエンジョイした。いわゆるラグビー的な動きだけではうまくいかない。この競技の理解度が一つの勝因だ。来年はみな研究を重ねて、手強くなることだろう。

さわやか一等賞は、高校生ながら決勝に姿をあらわした田辺高校A。同高校ラグビー部監督・田井素生教諭も、社会人をほんろうしたイガグリ海パン軍団の躍進に満足そうだった。地元ラグビー部員である彼らを大きくしたのが、この色鮮やかな大自然だと思えば、敗者のみなさんも納得いくだろう。

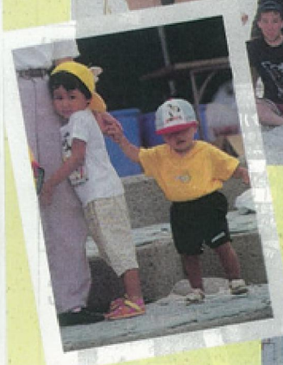
プレーの後のお楽しみは、沈む夕日をバックに豪華な温泉浴。ちょっとヒリヒリする背中でゆっくりとお湯を楽しみ、疲れをいやした。

ゲーム前のゴミ拾いを手伝ってくれた田辺高校チームをはじめ、このイベントはほとんどがの地域ボランティアの手でつくりあげられた。なかでも白浜町商工会のみなさんは、コートや掲示板の設営から、レフリーの講習会まで運営するなど大活躍。「梅干クラブ」としてプレーも満喫した。開催地には、「これは、私たちの大会だ」という熱い思いがみなぎっていた。参加者の胸に残ったさまざまな思い出は、手作り大会ならではのものだったにちがいない。（中部、関西、九州、関東の各地区大会、そして、それぞれのトップチームを招待して行われる初の全国大会の模様は、8月24日発売の10月号でお知らせします）

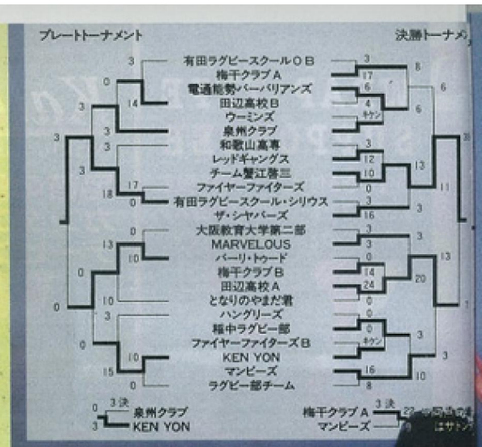
○浜は、大切な僕らのフィールド。ボランティアによるゴミ拾いもていねいに行われた

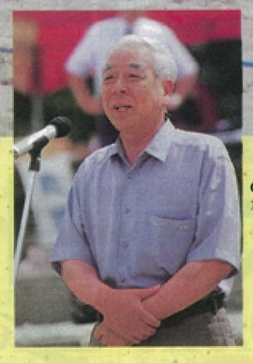
○第1位　チーム蟹江啓三
○第2位　田辺高校A
○(右)/第3位　梅干クラブA

○プレート第1位　ファイヤーファイターズ



○プレート第2位　パーリ・トゥード
○プレート第3位　KEN YON





○眞銘清兵衛町長も参加者たちを歓迎した